

西胆振がん治療

ワンチームで 患者支える

RFLL講演会「不安を小さく」



がん治療や緩和ケアなどについて学んだ「がん対策推進特別講演会」

室蘭

もし、がんと診断されたら。リレー・フォー・ライフ(RFL)室蘭実行委員会主催の「がん対策推進特別講演会」が22日、室蘭市知利別町の製鉄記念室蘭病院がん診療センターで開かれた。約70人の市民らが参加し、医師やソーシャルワーカーの講話を聞き、がん治療や緩和ケアについて理解を深めた。(坂本綾子)

胆振総合振興局、室蘭市医師会共催。RFLLジャパンの2024年テーマである「ワンチーム」に鑑み、病院や在宅でのがん治療・緩和ケアなどについて学び、がんと診断を受けた際の不安を可能な限り小さく、がんと向き合える社会をつくっていくことを目指すこと

講演会を開催。以前は8月のRFLL内で講演会を開いていたが、昨年からは

分けて開いている。同室蘭実行委の中田美樹実行委員長は「この講演会を通じて参加者や家族が、がん治療や緩和ケアにご理解いただけたら」とあいさつした。

「西胆振がん治療の支援体制」ワンチームでの支援」と題し、洞爺温泉病院の中谷玲二院長は「あなたのがん治療に緩和ケアが必要なとき」、製鉄記念室蘭病院の前田

征洋病院長が「がん治療における病院での支援体制」、市立室蘭総合病院の池田和晃ソーシャルワーカーが「がんの治療とお金のはなし」、日鋼記念病院緩和ケア科の吉田真医師が「病院での緩和ケア」、本輪西ファミリークリニックの佐藤弘太郎院長が「訪問診療での緩和ケア」をテーマにそれぞれ講話した。

中谷院長は部分別がん罹患(りかん)割合、10年生存率、緩和ケアなどについて話した。がんと診断されたら「遠慮しないで担当医に相談して。標準治療を中心に考え、自由治療は慎重に見極める必要がある」とした。緩和ケアについて、あまり周知されておらず、敷居が高くハードルがあることを説明した上で「どの病院でも受けられる。診断された時点で不安がある。最期まで支え、遺族のケアも行っている。自分らしく過ごせるよう、できる限り希望を尊重する」と話した。

前田病院長は同病院による支援の取り組みとして、緩和ケア外来や多職種での治療方針の検討、口腔管理サポート、リハビリ支援、がん患者サロンの開催などを紹介。「多くの職種がワンチームで病院でのがん治療を支えている。患者自身もチーム医療の一員です」と話した。